

小学校6年生児童の保護者の皆様

苫小牧市立明野小学校長 谷川 充穂

平成29年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月19日（水）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年8月に北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも9月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち児童が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から児童への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行わないとの考えが示されました。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 検査の概要

(1) 実施日

平成29年4月19日（水）

(2) 調査対象

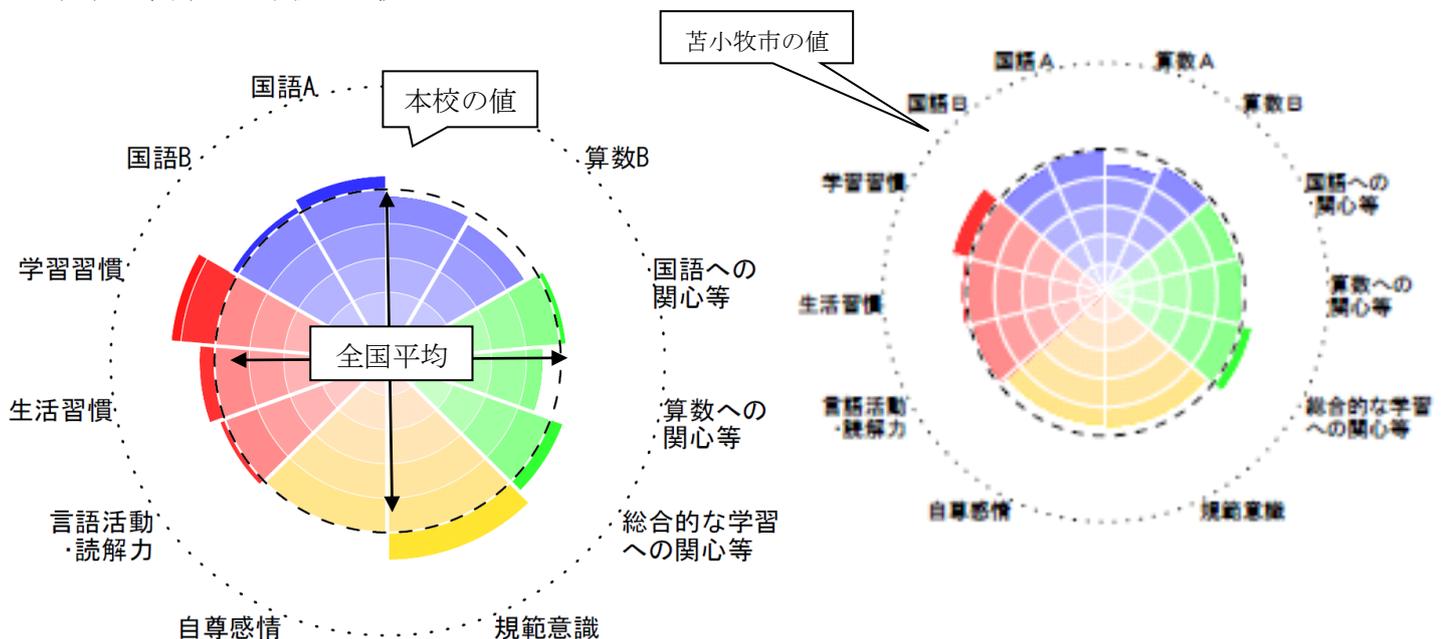
小学校第6学年（市内全小学校で実施）

(3) 検査内容等

- ① 教科に関する調査は、国語、算数の2教科が出題され、主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関するB問題が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する児童質問紙調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較



(2) 国語科

国語A

- ・国語Aにおいては、平均正答率が全国平均を上回った。
- ・国語Aの正答数の分布では、全国平均に比べ、下位層が薄く、中位層、上位層が厚い傾向が見られる。
- ・手紙の書き方（基本的な形式）の問題において、平均正答率が全国平均を下回った。
- ・「読むこと」の領域において、平均正答率が全国平均を上回ったが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については、下回った。

国語B

- ・国語Bにおいては、平均正答率が全国平均を上回った。
- ・国語Bの正答数の分布では、下位層が薄く、中位層が厚い傾向がみられる。
- ・写真から取り上げた言葉や文を基に、登場人物の関係性についてまとめて書く問題では、平均正答率が全国平均を下回った。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域において、平均正答率が全国平均を上回ったが、「書くこと」「読むこと」の領域については、下回った。

(3) 算数科

算数A

- ・算数Aにおいては、平均正答率が全国平均を下回った。
- ・算数Aの正答数の分布では、全国平均に比べ、下位層が厚い傾向が見られる。
- ・「図形」の領域において、平均正答率が全国平均を上回ったが、「数と計算」「数量関係」「量と測定」を下回った。
- ・ $5 \div 9$ （商を分数で表す）の問題では、正答率が低く、課題が見られた。

算数B

- ・算数Bにおいては、平均正答率が全国平均を上回った。
- ・算数Bの正答数の分布では、全国平均に比べ、下位層が若干厚い傾向が見られる。
- ・「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、そのわけを書く問題では、全国平均を下回った。身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断することに課題が見られた。

(4) 児童質問紙

学校生活

- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか」の質問に対し、肯定的な回答が全国平均を下回っている。
- ・「学校のきまりを守る」の質問に対し、肯定的な回答が全道平均を上回り、全国平均を下回っている。

家庭生活

- ・1日の携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット（ゲームを除く）をする時間（2時間未満）（「持っていない」も含む）が全国平均値より高い。
- ・「毎日きまった時刻に寝ている」の質問に対し、肯定的な回答が全国平均を上回ったが、「毎日決まった時刻に起きている」「朝食を毎日食べている」は肯定的な回答が全国平均を下回った。

3 学校の今後の取組について

- ◎算数において、基礎的な計算に課題が見られるため、計算問題を多く取り組んでいきます。
- ◎家庭学習の時間が少ない児童へは、模範となる他の児童の取り組みの内容を紹介するなど、個別的な指導を行っていきます。
- ◎学校生活において、自信をもって取り組めるよう、日常の活動や学校行事等で支援していきます。